

第5回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和4年8月17日（水）

開議 15時 20分

閉議 16時 23分

全員協議会室

【委員】 西田委員長、上野副委員長

村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 河上局長

議 題

- 1 まちづくりセンターのヒアリングの総括について（報告）
- 2 まちづくりコーディネーターとの意見交換会について（報告）
- 3 今後の進め方について
- 4 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[15 時 20 分 開議]

西田委員長

第5回協働のまちづくり推進特別委員会を始める。

1 まちづくりセンターのヒアリングの総括について（報告）

西田委員長

先般、まちづくりコーディネーターと当委員会との意見交換会を終えたところだが、その前には各まちづくりセンターにヒアリングに行ってもらいながら、いろいろな意見交換をした内容を事務局にまとめてもらった。それが資料1である。

まちづくりコーディネーターとの意見交換も想定した以上に、直接話を伺うことでそれぞれの考え方や今までの行動などが聞けたので、いろいろな面でプラスが大きかったと思っている。

資料2は、まちづくりコーディネーターから提出された感想などを事務局にまとめてもらったものである。

資料1には皆目を通してと思うが、事務局から説明があれば簡単にお願ひする。

河上局長

（ 以下、資料をもとに説明 ）

西田委員長

こうして見ると地域ごとにいろいろな違いがある。意識の温度差も委員それぞれが感じたことと思う。ヒアリングに行ってもセンター長や主事と膝を交えて話をした事実が、お互いにとってプラスになったし、またプラスになるよう働かねばならない。

このまとめについて感じたこと、意見、気づいた点があれば伺いたい。

岡本委員

課題について。私は三隅に行き、役員のなり手不足などが課題だと聞いた。浜田地域もリーダーの繰り越しという表現がある。金城地域も人材不足、特に若者がとある。しかし旭と弥栄にはその表現がない。どうだったのか担当者にお尋ねしたい。

柳楽委員

どこも同じ状況なのでその点は記載していないが、やはり高齢化が進んでいるため若い人材や役員のなり手は不足しているため、地域の団体を一つにまとめるなどの動きがある。

芦谷委員

高齢化や人材不足というのはいつも聞く。高齢化は進んでいるのだから仕方がない。人材不足も残念ながら、ごく一部の人が見るから足りない。末端まで掘り起こせばあるのに、そこまで手が届かないと思っている。だから簡単に人材不足だ高齢化だと言って逃げるのは、施策を進めるほうとしては発想が足りない。

岡本委員

人材不足についてはずっと思っているし、若者の参画をいかに働きかけていくかが大きな課題だろうと思う。芦谷委員が言われるように、いろいろなところにおられる人たちが少し背伸びして見てくれば、いろいろなことが見えてくるのに。この辺に何か仕掛けづ

川神委員

くりが必要ではと思い、我々の今後の課題、解決方法を見出していけばと思い、よそはどうなのか聞きたかった。

人材不足だ高齢化だというのは現実がそうなので言っても仕方ない。どのような人材が不足しているのか。それ以上に、人材不足が課題なら人材育成をどうするかが一番大きな課題だと思っている。最初から意識がある地域や人はそれほどいないかもしれない。何かのきっかけで先端事業に参加したり、研修会に出たりして最終的には次へつなげられる。人材育成ができるフィールドづくりが大事だろうと思う。最初からリーダーを探してくるのではなく、センター事業を通じていかに育てていくかが最終的な課題になる。

村木委員

弥栄では確かに人材育成に視点を置いた意見が多かった。国府では実際にそう言われた。ただ弥栄においては今、二つのまちづくり委員会が一つになり、弥栄のみらい創造会議として指定管理を受ける関係上、定期的に集まる機会があり、その中には若い方もいると聞いている。

西田委員長

旭と弥栄の担当委員から意見を聞いた。どこに行ってもどの分野でも人材不足と言われるが、人材不足から人材を育成する方向へ。各分野に組織や団体があり、その中へ、いかに若者を取り込んで育成するか、意識を変えていけるか、皆と一緒に汗を流しながら人間は変わっていくものである。そういうことが活発に行われる地域こそ、人材育成にもつながる気がする。

ほかに感じられたことがあればお願いします。

村武委員

私も公民館職員をしているときから、人材不足や育成は課題に上がっていた。どうやって巻き込むか、からして難しい。職員スキルがセンターによってばらついているように、今回のまとめを見て感じている。

社会教育（主事）士という資格があり、昨年からかなりのセンター職員がその資格取得に向けて講習を受けているが、まだ少ないのでスキルが上がってない。職員の資質を上げるのが大きいのではと感じている。

上野副委員長

三隅に行ったが、総括資料に「行政職員やOBの参加が少ない」とだけ書いてありドキッとしている。実は、あるセンター長が、行政職員はものをよく知っているのになかなか行事に参加しないと言われたら、別の方が、それは自分たちが、昔は、財源があったから、あれをやってくれこれをやってくれと言ってはやってもらっていた。今はそうもいかず、逆に、税金泥棒だと悪口を言うから来ないという言い方をされた。いろいろなことを知っている行政の人を巻き込む何かをしないと。その人もいろいろな趣味を持っているかもしれないし、興味を持っていることがあるかもしれない。そういうのを引き出して一緒に巻き込めばものは変わるのではと言われて、なる

ほどと思った。

西田委員長

三隅に限ったことではなく、悪口を言うのではなく、職員やOBを巻き込んでいかなければならないと感じた。

柳楽委員

それぞれの現状分析や連携、協働をやっているかどうか、あるいはセンターとして力を入れているところ、そういったところもだが、地域の中に課題があつて。最後に書いておられる、地域全体のまちづくりへの考察の中で、何か強く言いたいといったことがあれば。

これはセンター職員から聞いた話であつて、まちづくり組織の方の話ではないので、センター職員と組織の方との温度差はもしかしたらあるかもしれないので一概には言えないが、各地域でどうやって地域をよくしていこうか、活性化などは死語だと言われたところもあった。現状を維持するために前向きに工夫しようとしている姿勢は感じた。地域で一緒に新たに取り組めるような事業を始めているところもあった。地域ごとに実情が全く違っていると思うので、これを一つの考え方で仕上げるのは難しいかもしれないと感じた。

芦谷委員

旭の欄に書いたが、実情に応じたまちづくりを模索しているので、成果を急いで求めないでほしいという声は、本当に印象に残った。

まちづくりセンターに限って言えば、結局あり方が施設ごとに異なる。協働のまちづくりを推進する市が「まちづくりセンターとはこういうものだ」と言えればよいが、市は方針を持ってない。まちづくりセンター長が集まって、26館の思いが違うことを認識して、浜田市のまちづくりセンターはどのように地域を引っ張っていけばよいかの答えを探してもらおう努力をしてもらえばよい。今はやりたい放題、思いのままという感じ。ぜひまちづくりセンター間の調整をして、一定の方向性なり答えを見つけ出すことが必要である。

西田委員長

考察の部分で、各地域で一言ずつお願いしたい。

岡本委員

三隅だが、地域の子どもを巻き込んだイベントの話が非常に印象深かった。子どもには保護者がいる、保護者は次世代の地域リーダーになる人たちなので、この辺を何とかすれば。よその地域でも働きかけていけばどうか。

上野副委員長

三隅でも、まち側と井野とでは違いがすごくあつた。井野では買い物物に困っているため移動販売などを考えている。子どもをターゲットにしている話は私も聞いた。子どもが来れば親も来る、センター事業がにぎわうという成果がある。

川神委員

弥栄も、田舎だからのんびりしているということは全くない。業務がかなり多く、それをどうこなすか。特に弥栄は弥栄のみらい創造会議が結構頑張っていて、いろいろなところに冊子が置いてあつて参考にされている。ほかの地域ではセンターと地域協議会、センターとまちづくり委員会、それらの連携がどういう立ち位置になっているかよくわからないところもある。弥栄は弥栄のみらい創造会

議が中心となり、ここと地域協議会などがリンクしているようなつくりになっている。互いの関係がわかり、なおかつ誰がどこでどのような役割になっているかわかる。素晴らしい組織だと感じている。そろそろまちづくりセンターとほかの団体の立ち位置を整理したほうがよい。浜田全体でモデルがあれば本当はよいと思った。

西田委員長

川神委員はこれから副議長の職務で退席される。

《 川神委員退席 》

村木委員

弥栄の関係で。ここに書いてあるとおりにキーワードは計画書だと思う。私自身、一般質問でずっと言ってきた。地域計画書の作成。実際これを書くには皆とかなり話し合わないといけないし、共有しなければならない。弥栄も三隅も、地区の計画書を作ってそれに基づいて、実現するために何をするか。弥栄においては地域協議会や地区まちづくり委員会、まちづくりセンターそれぞれが役割分担し何をすべきかを図化しているので進んでいる。それがとても参考になるのではと思っている。

村武委員

金城のまちづくりセンターは皆わからないなりに一生懸命されていた。地域住民の協働のまちづくり意識が低いとおっしゃっていたし、自分たちも実際にどのように進んでいけばよいのかいま一つわからないとおっしゃっていたように思う。そう考えると、市の担当課が放りっ放しというか、もう少しまちづくりセンターに丁寧に寄り添って進めることが必要なのかと感じている。金城地域は公民館の時代から6館がとても連携して事業を進めておられ、今も続いている。そこをもう少し生かしていけるとよいと感じている。

先ほど村木委員が弥栄の事例で、まずは計画書でその中でセンターが担うべき役割が明確になると、よりセンターの進むべき道がわかるとのことだった。金城はまだそこがわかってないかもしれない。

西田委員長

私も金城へ行った。いろいろな取り組みをされていたが、市内26センターが連携して人を集めるといったことができたならよいという話をしたら、金城の6センターではそれをやっている。情報が行き渡って集まりやすい。お互い協力して支え合いながら地域のサポートをして、人集めでも何でも一緒にやると言われた。

先ほど芦谷委員も、センター長が集まって共通認識を持って何らかのまちづくりの答えを模索していくといったことを言われたが、共通しているような気がする。センターごとに温度差はあるものの、よいところを共有できるような仕組みがあれば、だんだん意識も変わっていきそうだと思う。

柳楽委員

現時点ではセンターがまちづくりに対して担うべき役割を考えているということなのか。今日は、センターがどのようにやっていけばよいのかといった話が主になっているので、このままその形で進んでいくのだろうかと思ったので確認したい。

西田委員長

今はセンターへのヒアリングのまとめなので、センターを中心とした話になっている。ほかにもまちづくり推進委員会の話や地域のほかの団体のこともあるし。協働のまちづくりはいろいろな団体・組織、行政との関わり、議会の関わりを含めて、取組をいかに進めるかだと思う。今日はまちづくりセンターが中心である。

ヒアリング総括について皆の意見を一とお伺ったが、これはこれでよいか。

村武委員

浜田地域のことは。

西田委員長

各委員から行ったところについてお願いします。

柳楽委員

どこのまちづくりセンターとは言わないが、少し規模の大きいところなのでなかなか難しいと感じた。人口規模が大きいと対象者が多いので、隅々まで手を回すのは難しい。例えばまちづくり組織とのかかわりを持つことになっても、あの職員数ではそれぞれのまちづくり組織にかかわることはまず無理だろう。周辺部と浜田地域に関しては考え方を少し変えないと難しいかもしれない。

村木委員

考察には特段書いてないところもあるが、地区まちづくり委員会とセンターと地域協議会、この三つの組織がつながってないのは否めない。ただ、従来やってきた公民館活動、社会教育、生涯学習といったところについてはとちとち進めている状況ではある。

国府まちづくりセンターにおいては、意図的に地区まちづくり委員を集めて、まずは話し合う場を設けたのが去年の大きな事業の一つだと言われた。少しずつ意識をして活動されているようである。

芦谷委員

例えば市内のマンションなどは自治会も町内会も参加がない。そういうところもあれば、中山間を控えて地域活動を割とされているところもある。浜田地域は濃淡がある地区を担当しておられるので、まちづくりセンターは運営が難しい。それでも例えば、マンションにも防災組織は必要である。中山間地域とは違った形で必要な部分、できる部分をまちづくりセンターが必要を訴えながら進めなければいけない。

村武委員

私が行ったセンターは昨年まちづくり組織が立ち上がったときにおられたセンター長とはかわっていて、現センター長に情報共有があまりできてないまままちづくりが進められた。まちづくり委員会ではできたが、何のためにできたのかがわからない中で進められている様子で、センター職員も悩んでおられた。しかしまちづくりセンターが引っ張っていく必要があるのではということで頑張っておられたが、どのように進めるべきかは、コーディネーターや市職員が寄り添って進めていく必要があるように感じた。

柳楽委員

これまでセンター職員は、生涯学習や社会教育についてはいろいろ勉強されているが、まちづくりに関しては自分たちはわからない部分が多いということで、研修をもっと積極的にやってもらいたい

という話があった。これもセンターによって温度差があったのだが、西部県民センターなどの研修を積極的に活用されているセンターもあったし、なかなかそこまでいかないセンターもあった。研修の周知を積極的にしたほうがよいのでは。

西田委員長

浜田地域だと人口規模が大きく、まちづくり組織にしても立ち上げるのは難しいし、中心部と周辺部では意識が違う。ただ、それだけ人口が多い地域なのでちょっとしたことですごいエネルギーが湧き上がる、そういうポテンシャルがあると感じた。きっかけさえあれば何か変わる気もした。

申しわけないが今日は時間が限られているため、この件の続きは次回にしたい。

3 今後の進め方について

西田委員長

今までまちづくりセンターのヒアリングをして、まちづくりコーディネーターのヒアリングをして、こういった意見交換会はとてもよいと思った。行政とのコミュニケーションは必要だとも感じた。浜田市の地域活動支援課と当委員会とで意見交換してみたらどうかと思うのだが、いかがだろうか。事務局から願います。

河上局長

まちづくりコーディネーターとの意見交換会についての報告は、先日皆からいただいた振り返りシートをまとめたものなので、ご一読いただければよいかと思う。

今後の進め方について、今配信しているこれまでのまとめで地域と関係団体との関わり、コーディネーターとセンターの位置づけなど、この数か月で皆がやってこられたことをまとめたつもりである。あとは行政がどうかかわっているかが見えてないところかと思った。この表を見てもらいながら今後どのように進めたらよいか検討してもらいたい。

柳楽委員

行政との意見交換はぜひやってもらいたい。周辺地域はセンターがまちづくり組織の事務局を担っているところもあるし、まちづくり状況がわかっている職員も多かったように思うが、浜田地域はまちづくり組織の中がどのような状況になっているか把握しづらいので、浜田地域は特にまちづくり組織の方へのヒアリングをしていただくとよいのかと思う。

西田委員長

行政との意見交換も予定しているが、浜田地域のまちづくり組織との意見交換もよいことだと思う。ほかの皆はいかがか。

村武委員

浜田地域のまちづくり組織の状況などはぜひ聞いてみたい。それ以外の地域の状況はまちづくりセンターのヒアリングである程度わかっているかもしれないが、住民側の意見ももしかしたらあるかと思ったりもする。それをするとすごく時間がかかったりするかもしれないが、ご意見を伺ってみたい。

芦谷委員

前の期の当委員会の資料にあったのだが、各地区の行政連絡員、行政区、町内会がばらばらである。それを早く統一したほうがよいと言っていた。問題は、その前に、まず地域ではどうなっているか実態を早く求めて、状況把握をしなければいけない。悪いことに、執行部は「皆違って皆よい」という方針である。新市になって十数年たつのに、地区のいろいろな名称などがばらばらでよいというものもないと思う。名称も含めた全市の実態把握が1点。

もう1点。行政へのヒアリングももちろん大事だが、むしろこの問題のゴールは行政にあるので、今のコーディネーターやまちづくりセンターのヒアリングも含めて、行政が持っている課題について少し前に踏み出した方向性を示してもらい、それによって意見交換をしないと。何もなく執行部の意見を聞くだけでは生産性がない。ぜひ今までの資料などを執行部に届けて、執行部としてどう思うかをまとめてもらったほうがよい。

西田委員長

執行部との意見交換をするのに、もう一歩行政も踏み出したものをもとに行うべきという話だった。これについては地域活動支援課が担当しているだろうか。

河上局長

報告である。以前も伝えたが、地域活動支援課から10月のどこかで協働のまちづくり推進計画の進捗状況の報告や、まちづくりセンターの研修などを報告させてくれという依頼が来ている。10月中旬から下旬になるかもしれないが、執行部に入ってもらって委員会を開催することは決まっている。もしそのときまでに何か準備してもらい、このときに合わせて時間を取ったらどうか。

西田委員長

地域活動支援課から協働のまちづくり推進計画の状況報告がしたいとのことなので、それに合わせて時間を取ってこの委員会での意見交換の場をそこで設けたい。委員はいかがだろうか。

(「異議なし」という声あり)

では10月の中旬か下旬、日程調整をさせていただく。浜田地区のまちづくり組織との意見交換となるとどうか。

岡本委員

問題になってくるのが、浜田まちづくりセンター管轄の町が非常に難しい状態で、自治会組織があって、そこに町内会長があるだけで、包括したものがそろってない状況があるから、全体でまちづくりというくくりでは寄ってもらえない。そこに向けて「どう思うか」と言っても、それがなくても十分できているから必要ないと言われやすい環境である。地域にはいろいろな問題があったにせよ、市民生活は何とかなる。そういう意味で、今そこに意見を求めると、求めた人がマイナス思考のほうが出やすいので、もう少し待ってほしい。

柳楽委員

現在、もうまちづくり組織が立ち上がっているところでよいと思う。

- 西田委員長 浜田地区についてはまちづくり組織が立ち上がっているところと意見交換ということで、周辺地域についてはおおよそセンターと同じ数だけになる。
- 岡本委員 まちづくり組織の大きさによるのだろうが、私の捉え方はどちらかというところ、例えば殿町は9町内で組織ができている。そういう単位ならよいが、大きな組織にしていくと。本当は浜田においては大きな組織にしないと意味がない。一応意見は、その地区のまちづくりセンター、もしくは松原、外ノ浦、殿町、新町などに意見を聞いてもらうくらいにとどめていただきたい。
- 河上局長 浜田地域の組織図をタブレットに配信したが、ごらんのように複雑なので担当課と相談してからにさせてほしい。
- 西田委員長 まちづくり組織との意見交換はもう少しまとめてからにする、計画の中に置いておくにとどめさせてほしい。地域活動支援課との推進計画の取り組み状況報告に合わせた意見交換を10月中旬から下旬にやるが、それまでにもう1回この委員会を開いたほうがよいかどうか。議題2のまちづくりコーディネーターとの意見交換を踏まえて。これもあまり時間をかけなくてよいと思う。例えば9月定例会議中に少し時間を取って、もう1回報告を兼ねて意見交換ができればと思うのだが、それをやってから、地域活動支援課との意見交換を10月に。そういうペースで会議をしたいと思うのだが。
- 柳楽委員 事務局に確認だが、執行部との意見交換では進捗状況などを発表していただけるとのことだが、逆にこちらから今ヒアリングを行った中で確認しておきたいことを確認させていただくことはできるか。
- 河上局長 担当課にも、そのときに特別委員会を開いて報告事項として受けた後に、意見交換会の時間を別に設けてほしいと依頼して、了解をもらっている。
- 柳楽委員 その場合、確認したい項目について事前にお知らせしておいたほうがよいのか、それとも意見交換の中で聞いてよいのか。
- 河上局長 どちらでも。もしある程度回答が欲しいということなら事前に皆にアンケートで質問事項を寄せてもらい、それを担当課に渡したほうがよいならそうする。どちらでもよい。
- 西田委員長 事前にまとめてできるなら効率はよいのかもしれないが。
- 柳楽委員 次の9月中に再度委員会を開かれるとの話だったので、そのときにもし各委員で確認したい事項があり、執行部側に前もって調べておいていただかないと返答できないようなことがあれば、次回に申し伝えるということでもよろしいか。
- 村武委員 もし委員会を開いていただけるなら先日のコーディネーターとの意見交換会について。報告書を読む限り、すごくよかったのだろうと感じているので、もう一度話を聞きたい。まちづくり社会教育課も。

西田委員長

今後の予定として、執行部との意見交換は10月中旬か下旬だが、それまでの1回をいつ行うか。予算決算が終わった後か。9月26日月曜日の午後1時半ごろにしておいて、もし何かあればそれが終わり次第としようか。それでよいか。

(「異議なし」という声あり)

では次の委員会は9月26日月曜日の午後1時30分からとしておく。まちづくりコーディネーターとの意見交換会の報告と意見交換で。以上で本日の協働のまちづくり推進特別委員会を終了する。

[16 時 23 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西 田 清 久